

洪水等に関する防災用語改善検討会（第3回）での委員発言要点

■水位レベルについて

- ・ 情報提供対象地区を予め細分化するのは難しいのではないか。
- ・ 氾濫危険水位、破堤・越水段階であれば避難勧告が出ていなくても、住民には避難行動を取ってもらうようなイメージを持っている。
- ・ 水位よりレベルのほうが住民に認識を持ってもらえば使用していくことは望ましいと考える。
- ・ 今回提案されている予警報の名称に関しては、イメージ的に1段階ずつ早いように感じる。
- ・ 都市域では、河川水位だけで表現できない浸水状況も考えられる。
- ・ 水害の複雑な現象を一つとして議論していこうとされていることが議論を難しくしている。
- ・ 川の水位に絞って議論し、川の水位によって呼びかける内容を考えるべき。
- ・ 事務局から方向性を示してもらった方が議論しやすい。
- ・ 水位そのものの情報としてレベル分けをした後に、次の段階でタイミングについて検討すべき。
- ・ 今回の提案では、避難の準備をする段階と実際に行動を取る段階があいまい。
- ・ その時間差をどのように考えていくべきか整理すべき。
- ・ 水位の情報と市町村の判断にはワンランク程度の差があるのではないか。
- ・ ランク表示が市町村にとって避難勧告、指示のアドバイスになるのであれば受け入れやすいのではないか。市町村にとってはプラスの情報となる。
- ・ 誰に提供する情報なのかによって表現も違うのではないか。
- ・ 市町村に。住民に提供するためにマスコミに。防災機関に。
- ・ 避難勧告・指示を発令する際に、ある程度の地域が限定できるような情報であれば重要な情報である。
- ・ 水位をレベル分けすることは良いが、レベル分けと避難のしやすさとはリンクしない。
- ・ 水位の情報だけで行動を規範してしまうのは問題がある。
- ・ 一般住民にいかに伝えるかが重要である。
- ・ レベルといった概念を一般住民にどのように浸透させていくか。
- ・ 水位の表記がなくなるとは水防団としては混乱する。
- ・ レベル3より上ぐらいが住民にとって必要な情報ではないか。

- これまでの情報提供のやり方に、今回の提案結果をのせた場合に、どのような感じになるかを示してもらいたい。
- レベルやカテゴリで水位を表現することは委員の中でどのように感じられているか確認したい。
- レベルで表現して幅を持たせることは良いと考えられる。
- レベルでの表現はあまり好ましくない考える。
- 防災行動は水位で定義したほうが良い。
- レベルと水位は併用していけば良いのではないか。
- レベル5は不要ではないか。
- 水位標の水位を絶対的な数値として言われてもわからない。水位を数値ではなく対象物とあわせて表現する(「道路面から〇m下」等)ことが有効であると考える。
- 幅を持たせられるところはレベル表現の良いところである。
- 長い情報文は災害対応に追われている市町村職員にとっては迷惑。
- 水位を読み替えたものとしてレベルを位置付けられるのであれば水位がわかりやすい。
- 水位だけでは意味が伝わりにくい。レベルのほうが危険の概念とは結び付けやすい。
- レベルと水位を併記し、解説をつければよい。
- レベルの意味合いを認識してもらうことが必要で、思い切ってレベルで出していくことも重要である。
- レベルで表示したとしても、トリガーはあくまでも水位である。
- レベルで行動様式を規定することは難しい。今後、慎重に議論すべき。
- 水位情報に基づく危険度レベルであるべきと考えている。
- レベルで表現した場合には、水位のベクトル値を含めて伝えていく必要がある。

■洪水予報等と水位レベルについて

- ・3, 4, 5 レベルでタイトルが変わらないものが、紙ベースで送付されてきてもタイトルが同じであると市町村は見逃す危険性がある。
- ・警報情報を出す場合と補完情報を出す場合には差をつけるべき。
- ・水防団待機水位は一般には提供しないかもしれない。

■用語について

- ・一般住民は指示と警報すら良くわからない。
- ・どこかの段階でパブリックコメントとしてチェックする必要がある。
- ・国際レベルで使用しているものにあわせていくことについても考えるべき。
- ・但し書き操作については、言葉をいくらかえても問題は解決しない。
- ・表現を変え、解説をつけるなど中身を理解してもらうことが重要である。
- ・氾濫と洪水の言葉の違いについて認識しておく必要がある。
- ・水位のネーミングについて
 - 洪水注意水位：一般の人に注意したいということは理解した。
 - 氾濫危険水位：避難勧告が出ていて避難していない場合は呼びかけやすいが、勧告が出ていない場合の呼びかけが難しい
 - 避難判断水位：住民に向けていくのか、首長が判断するための情報としていくのか。
 - 水位情報の対象は、首尾一貫していたほうが良いと思われる。
- ・氾濫、洪水はどちらかに統一したほうがよい。
- ・専門家の中で使用されている用語は改善の必要はない。
- ・TPを標高とするのは地域性から考えると問題がある。
- ・洗掘：侵食くらいが良いのでは。
- ・天端：上端は誤解を受けるので、上面くらいが良いのではないか。
- ・(但し書き操作について)
 - この操作を行うことによって、下流流量が増すので危険ととらえられやすい。
 - 「緊急の操作なのだ」ということがわかる表現が良いのではないか。
 - 水位の名称は、サイエンスか防災か。
 - 防災であればわかりやすさが必要。
- ・但し書き操作などは専門用語として取り扱えばよい。
- ・一般の人が使用しない用語まで対照としないほうが良い。